

やまごこ



三村山から望む笈ヶ岳と大笠山 (by N. Toga)

目 次

今年のトピックス その1 ~ 2年目のライチョウ ~		1
今年のトピックス その2 ~ 舟田さん(15期)日本百名山完全踏破 ~		2
日本百名山を終えて	15期 舟田 節子	3
ベルクハイムでサミットを	20期 久富 象二	5
2010 野沢温泉スキー	11期 青柳 健二	6
白山神駟道登山	4期 佐藤 秀紀	8
錦秋の山と湖の旅	8期 篠島 益夫	10
ツールド能登400、参戦記	20期 松下 和隆	12
現役生のページ		14
OB会会計報告		19
編集後記		20

表紙の言葉< 笈ヶ岳・大笠山 > (梅 典雅)

ぼくたちが現役の時、といえばもう30年あまりも前になってしまうが、笈ヶ岳と大笠山は、あこがれの山であったように思う。その頃は、両山とも登山道はなく、原始的な自然が残る、県内で最も登りにくい山に数えられていたからだ。

ぼくがこの両山に初めて登ったのは、3年生の秋、第四次白山 - ベルクハイムPWのときで、猛烈な藪こぎの末の登頂だった。そして、翌年、中宮から登った春山合宿。大笠手前の幕営地で、発達した低気圧の暴風によりテントが裂け、這々の体で逃げ帰った。

その後、大笠山には、奈良岳からの県境稜線と境川ダムから登山道が整備された。一方の笈ヶ岳は、未だ明確な道はないものの、『日本百名山』(深田久弥)のあとがきに、未踏を理由に掲載を割愛したと書かれていることや、「日本二百名山」に選定されたことなどにより、春の大型連休には県外からもかなりの数の登山者が訪れるようになった。

白山から北に延びる稜線の空を、個性的で対照的な山容で画する笈と大笠。これからずっと魅力的な山であり続けて欲しいものだ。

「 2年目のライチョウ 」

ライチョウ 白山で越冬

昨年6月以降、4回目生息確認



過去3回と同じ個体か

県、環境省調査 定着にも期待

石川県と環境省が白山（標高2702m）で実施した調査で、国特別天然記念物「ライチョウ」の雌1羽の生息が再確認されたことが6日、分かった。66年ぶりに発見された昨年6月以降で4回目の確認となり、県は過去3回と同じ個体とみている。白山で越冬したことが裏付けられ、関係者は今後の「白山定着」にも期待を膨らませている。

県議会定例会

谷本正憲知事が6日開会した県議会9月定例会の提出議案説明の中で明らかにした。

県白山自然保護センターと環境省中部地方環境事務所は今年5月から計8回、ライチョウの生息調査を実施してきた。8月3日午後、体長約40センチの雌1羽を確認。数時間にわたり、ハイマツ林で休息しながらイワキキョウやイワツメクサの花、イワ

（県議

会）白山（石川県白山自然保護センター提供）

スグの種子などを食べていたという。4日午後にも同じ個体を確認した。

（一面に本記）



ライチョウ 日本では本州中部の高山帯に生息している。絶滅の恐れのある野生生物を指定する環境省のレッドリストでは、絶滅の危険が増大している絶滅危惧（きんぐ）Ⅱ類に分類される。国内のライチョウは減少しているとの指摘もあり、専門家の間では絶滅を防ぐため、かつて生息していた白山へ移すことを検討すべきとの意見がある。

同センターは昨年6月2日、10月10日、同日にもライチョウを確認した。10月には暗褐色

色の夏羽から白色の冬羽に変化している様子も把握できたが、それ以降は生息は確認できていなかった。いしかわ動物園（能美市）では年度内に、ライチョウの近縁種である「スバルバラライチョウ」の飼育を始める予定で、県は11月に金沢市で開かれる全国ライチョウ会議で今回の調査結果を報告する。調査に参加した県白山自然保護センターの上馬康生次長は「ライチョウが定着すること、白山が自然の宝

庫であることを物語「かに見守ってほしい」。発見した場合は静かとしてほしい。

平成 22 年 9 月 6 日の
北國新聞夕刊の記事

昨年、白山でライチョウが発見されたとのビッグニュースを紹介しましたが、あれから1年が経ち、白山で越冬したと思われるとのニュースが9月に流れました。記事には、白山自然保護センターの15期上馬さんの「発見した場合は静かに見守って欲しい」とのコメントも紹介されています。

「舟田さん 日本百名山完全踏破！」

元OB会事務局長の舟田節子さん（15期）が、今年8月30日の中央アルプスの空木岳登頂で百名山完全踏破を果たしました。

OB会では、元OB会会長（現OB会アドバイザー）の奥名さん（15期）の発案でお祝いの横断幕を作成し、舟田さんに持参してもらう事にしました。（新聞の写真、向かって左側の横断幕）

当日は、好天に恵まれ、百名山最後を飾るのにふさわしい登山となったようです。

そこで、舟田さんから百名山登頂達成を終えて「やまざと」に寄稿していただきました。

OB会寄贈の横断幕



市自然保全審委員・舟田さん

金沢市自然環境保全審議会委員を務め、金沢ナカオ山岳会に所属する舟田節子さん（まじい）金沢市並木町が、「日本百名山」を踏破した。幼いころから一つずつ積み重ね、たどり着いた百名山踏破の「頂」に「日本のみならず、動植物にあふれた自然は世界でも一級品」と振り返り、山への思いを再認識した。（田嶋豊）

元祖山ガール「百名山」踏破

小4から登山一筋「日本の自然は一級品」

舟田さんは小学四年生のころから父に連れられて登山に親しみ、金沢大ではワンダーフォーゲル部に所属。その後、ナカオ山岳会に入会し、その間、海外へのトレッキングにも挑戦した。

十数年来、県内の登山ガイド編纂にも携わることが、全国の事情を知った上で環境保全への提言ができればと、日本百名山に狙いを定め、二〇五年ほどで三十一四十の山を集中的に登った。

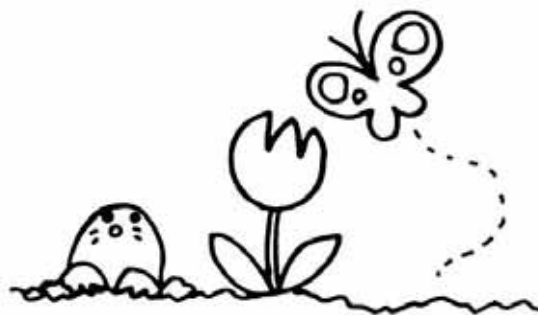
最後となる空木岳（長野県）に登頂したのは八月三十日。好天にも恵まれ、周囲の山々が美しく映え「爽快だった」と舟田さん。山で出会った人たちと、達成の喜びを分かち合ったという。

近年、多くの中高年や若い女性にも人気を集める登山だが、あらためて感じたのが保全の必要性。「自然を利用する中で、利用者の意識が変わることが一番大切」と舟田さん。百名山はそれぞれし尿処理やごみの持ち帰りマナーが徹底され、植生の保護もされており「自然を安全に、大事に活用していくことが、日本と日本人の幸せにつながると実感した」と話した。

空木岳を背景に、地元の仲間が用意した垂れ幕を掲げる舟田さん（左から6人目）

8月下旬、長野県内で舟田さん撮影

9月3日の北陸中日新聞の記事（左から6番目が舟田さんです）



日本百名山を終えて

15期 舟田 節子

x座標に年齢をとり、y座標に「山の標高×回数」のようなスカラ - (数値化できるが単位は決められない)をとった場合...私は数学の非常勤講師でありますから、このように恰好をつけて表現する(したつもり)と、どんなグラフを描くでしょう。

高い座標点でブツンしたのが植村直己他のクライマ - 。どこで中断するか、どこから負の傾きに、どの程度の傾斜で、それをどの座標点で、どれだけの定義域の間...

うちの学校の生徒ならとっくに寝てしまうような表現です。でもOB会員の場合、それだけの教養はありますから、この表現にこめたユ - モア、悩んだところで人間の行動パタ - ンなど類型化ができる程度とか、意図する所はご理解頂けるでしょう。

このグラフの背景となるいろいろなファクタ - があります。そうせざるをえなかったケ - スや、結果的にそうなったケ - スが圧倒的に多いことでしょう。

つまり一般人には、この(x、y)グラフに表せない方が主体です。しよせん、「山は遊び」なのです。

もし、この(x、y)グラフを主体に生きた場合、植村直己の生きた時代背景と彼の栄光を考慮したら、高い座標点でブツン以外に選択があったのか?わざわざ死にたい人はいないでしょうけれど、彼にx軸の右のグラフがどう描けたのかは疑問です。というか、「楽は下にあり」です。一般人は山遊びを楽しんで、どこかで山離れをして、「いい思い出」だけで生きればいいです。人生は他にいっぱい難題も雑事も抱えるものですから、「山の恵み」だけを享受すればよいのです。

「どの山が一番印象に残った?」「自分にはとても無理。5山、あるいは10山選び出すならどこですか?その数なら行けそうだから」とか、「次は200名山、300名山

を狙うの?」とか、その反対に「百名山済んだからといって、あっくりこないでね」とか。祝って頂いたり、気に掛けて頂いたり、ありがとうございました。

一方「え、もう96山も登ったんですか」「ハイ。狙ってたわけじゃないですけど、ふと数えてみたら70山を越してて、それならいっそやっつてしまおうかと」(たいてい、動機をそのように答えてきました。)"そうだよ。百名山を最初からギラギラなんて奴は嫌だな。"(ほとんど、そのような返事をもらいました。)"で、最後の締めはどこですか""空木岳の予定です""それって、どこにあるんですか"(おぬし、その程度か!と思いつつ)"中央アルプスです。木曾駒の南にあります""なんで、そこにしたんですか""最後の15山くらいになったら、結局行きにくい所ばかりがバラバラと残りました。自分で行ける山、ツア - でなければ行けない山を、ツア - 優先でうめていったら、そうになりました。それに木曾殿山荘は特別に祝ってくれるという噂ですから"

ちょっとおまけで、「うつぎ」というのは、私が舟田の名になる前に住んでいた打木町(うつぎ)と同じで、それもノリとしてはいいなと考えていました。

結果は、好天に恵まれ、ワンゲルOB会(奥名さん制作)とナカオ山岳会の横断幕を広げて記念写真をとり、ツア - メンバ - にも、木曾殿山荘でも祝って頂いて、幸せな完登とすることができました。

その時には私はまだこの後新聞種として持ち込むことや、その記事を添付して山溪に個人契約の件を確認することまでを予定していました。そんな仕掛けを胸にしながら、「終わりよければ、すべてよし」の通りで、みんなに祝ってもらえる完登を本当に有り難いと思いました。

少し秋めいた空が青く澄んで、周囲には思い出をまとうことになった山々がくっきり見えていました。ふるさと白山が御岳の左に広がっていたことも、山の恵み以外の何物でもなかったです。

こんなに美しい所に、なんで人は妄執を持ち込むのか？それに憑かれて、何でこちらまで義理やら意地やらを引きずって登ることになるのか？青臭いことですが、自分は筋を通し、仲間のために時間を使い、新聞社やテレビ局にも出掛け、各公機関の窓口で「どうすれば、後援がとれるんですか？」と食い下がり、会を支えたつもりです。

お天気なんて運任せ、たまたまのジェット気流の都合です。でも山の神様のご褒美みたいに思えたのが、私の能天気なところ。山は人間のゴタゴタを超越しています。

だから、「どの山が一番印象に残った？」
「自分にはとても無理。5山、あるいは10山選び出すならどこですか？」には答えかねます。どの百名山も素晴らしいですよ。さらに順位をつけようなんて発想を山にもちこまないで、行ける山を楽しんで下さい。

「次は200名山、300名山を狙うの？」も、う～ん、この方の山の価値観がそういうあたりなのか…。数を追えば、犠牲にするものが多くなります。100名山を巡れば、ひとまず日本の山基準は手にできたといえます。山で食べていくなるともかく、普通は遊びのレベルで関わることです。残り時間や体力を考えて、執念が先立つような目標は掲げない方がいいんじゃないですか。老いるほど、妄執はろくなことがない。「潔く飄々とした老後」を目標にして、ちょうどぐらいじゃないでしょうか。

「百名山が済んだからといって、あっくりこないでね」には最後は毎週登山状態になって、傍目にはそんな心配を頂くほどだったかもしれません。ただ百名山は、それなりに標高が高く狙える時期が限られてしまいます。公共アクセスがその時期しかない。真夏なら温かい雨も、晩夏にはもう冷たい雨に変わります。体調を常にハイレベルになると、定例状態にした方が有利です。また私も仕事現役ですから懸念なく縦走日をとれるのは夏休みの間だけでした。気合いなしでは到底仕上がりにません。

週末にしか帰らない夫に、毎週消えている妻。夫には「どうかお願いします」とラブレタ - を書き、北アの場合はアッシ - をやってもらいました。末子もゴミの日を私より気付くくらい主夫に適應しました。私はネパ - ルヒマラヤへ一カ月出奔の前科持ちですから、国内ならまだましといった解釈だったかもしれませんが。

後で私の登り先を、夫がインタ - ネットで全部検索していたことを知りました。心配だったり興味があったりしたんでしょうね。これで私はもう頭があがらず、夫は我が家の畳の上で「あなたと一緒にの人生でよかった」と妻の感謝の言葉を聞きながら安らかに往生できる見込みです。(何の話じゃ?!)

気付けば、塾仕事のプレッシャ - をばねにカラパタ - ルの丘をめざしていたり、会の分裂騒動を種に日本百名山を完登したりしています。

常識的には諦めていたり、潰されていたりの方だと思います。結局、何があろうとどんな状況にしよう、山へのエネルギーに、したたかに変換している自分に気付きます。周りがどうであろうと、自分は自分の山の(x, y)を堅持していた...そういうことになります。

これから衰えたり、悲しいことがあっても、自分は山に足をむけるだろうと予想します。値域のyはどこにあってもいい、グラフを伸ばし続けていくことが私の選択です。

百名山を回ったら、山ガ - ルを多数見かけました。新宿の山ツア - バス乗り場にも若者がたむろしていました。隣同士にしながらそれぞれが携帯をピコピコという薄ら寒いつきあいから、一緒に汗を流し会話を楽しみ感動する山へと、仲間の実感を得て、若者の足は山に向き始めているようです。妄執を引きずりがちな既存の会への入会を勧めるのではなく、安心して山へ行ける機会を作ってあげられたらと思います。会のためではなく、山を生涯の遊びとできるように、誰かの(x, y)をお節介できたらいいですね。

ベルクハイムでサミットを

～小屋作業を考える～

20期 久富 象二

今年度の山小屋酒場は散々な結果となっていました。春は犀川ダムまでの県道が落石工事のため日曜・祝日しか開放されず、やむを得ず、6月6日(日)に日帰りで行いました。参加したのは、13期の大島氏、辰野氏、16期の北川氏と私の4人でした。小屋を掃除し水場のホースを固定する作業を行ってきました。

秋はダムまでの県道が落石工事のために全日通行止めとなり、やむなく中止としました。現役生も参加することになっていたのが残念でしたが、彼らが登山道整備に意欲満々であったことを頼もしく思います。

ベルクハイムはかつてとは違ってきています。倉谷川の流れが大きく変わり、雨量計付近の道が水没してしまっています。また高三郎への登山道はかなり荒れているらしく、春にベルクハイムに入った際に、ベルクハイム下のテント場に山菜取りで定住(?)しているおじさん達は、高三郎への登山者を見かけると半強制的に鎌を持たせて草木を払ってくるように頼んでいるとのこと。そして何よりの変化は、犀川ダムまでの県道の通行が思うようにならなくなってしまっていることです。来年はスムーズに通行できることを願っています。

このような変化や困難はあるにしても、ベルクハイムを維持し、高三郎への登山道を復活できればというのが、私達OBの共通した思いです。

さて、その具体策はあるのか？

思い起こせば、ワングルは議論が盛んなクラブでした。議論を重ねることにより困難を打開し、そうすることで各自が

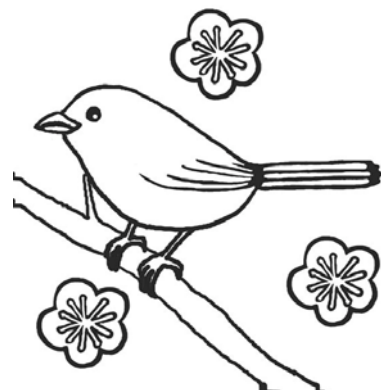
活動する喜びを見出していたように思います。周囲やこれまでの慣例にとらわれず、考え抜き議論することが現状打開の第一歩であると木田元は「現代の哲学」に記しています。

ベルクハイムを維持し高三郎への登山道を復活する具体策は、かつてのように喫茶店、あるいはファミレスで議論しても見出せはしません。この議論は、ぜひベルクハイムで行いましょう。倉谷の空気を吸い、川の流れを眺め、カメムシを払いよけながらでないと倉谷の魅力は語れません。登山道整備の楽しみも、もう一度やってみないことには甦りません。そこで表題の「ベルクハイムでサミットを！」となるわけです。現地の問題は現地で議論！

考え議論することと同様に人間関係も大切です。今年度予算を付けてくれた金沢市の市民スポーツ課の課長さん(倉谷の出身です)や担当の中嶋氏(なかなかナイスなあんちゃんです)それに尽力いただいた森一敏市議会議員にもぜひ加わってもらいましょう。

「ベルクハイムでサミットを！」

来年はぜひ多数参加ください。



2010 野沢温泉スキー

～ご苦労様、そして有難う～

11期 青柳 健二

事務局注：野沢温泉スキーは恒例行事として定着しました。この文章は、幹事の11期 青柳さんがスキー終了後参加者の皆さんを中心に送ったメールを、了解を得てやまざとに掲載させていただいたものです。青柳さんありがとうございました。

バンクーバー冬季オリンピックと同時開催となった今回の野沢スキーは、バンクーバーの雪不足と悪天候をよそに、タププリ積もった雪と絶好の好天気に恵まれ、まずは無事終了、例年どおり楽しいスキー合宿となりました。これは、ひとえに皆様が行いの良さによるものであり、皆様のご支援・ご協力に感謝いたします。今回、開催日を例年より一週間早めていますが、温暖化傾向から、これは成功であったと思います。また、昼休みの集場所を湯の峰ゲレンデのミヤセイに変更しましたが、これも2階席でゆっくり食事ができ良かったと思います。来年以降も、継続したいと思いますのでご了承下さい。

さて、スキーは、加藤VTR監督が不在であったため、各自がVTR撮影を意識せずに気楽に自分の技量に合わせて滑っていたようでありまして。20日の土曜日は、ゲレンデが綺麗に圧雪され、非常に滑りやすく整備されており、皆が快適な滑走を楽しめたものと思います。また、翌日の21日は、夜に少し雪が降り、朝一番には新雪が薄く被ったゲレンデに、最初のシュプールを刻む快感を味わった方もおもしろいでしょう。ただ、ゲレンデに人があふれる時間になると柔らかいコブができ、不整地での滑降術も試されるやや難しい環境となり苦労されたのではないのでしょうか。皆さんの感想の中に、2日目は思うような滑りが出来なかったと記しているものがありましたが、それは単に疲労だけによるものではないと思われます。

今年、野沢のゲレンデでは、昔「シルバーです」と声を出したICチケットゲートが撤去

されて、紙のチケットを提示する方式になりました。また、やまざとゲレンデのリフト下の林間は、自己責任のもと滑走が許され、多くのスキーヤーとボーダーが滑っていました。そして、そのスキーヤーの中には沢山の外人さんが混じっており、野沢の新しい流れを後押ししているように思われました。土曜の午後と日曜の午前中は、長いリフト待ちとなり、若いスキーヤーも多く、村営から第三セクターの運営となった野沢では、チョット活気が戻って来た事が感じられました。ただし、経費削減からか、リフト前の時計が止まったままとなっているのはいただけませんね。

そして夜の部「野沢の宴」は、舟田さんの篠笛で幕を開けました。新人女優と共に和服で抹茶を点てていただく間は、DVD「エレガントスキー」でイメージトレーニングをしました。プロジェクター映写会は、佐藤先生の「ゴビ砂漠緑化ボランティア」、片田さんの「ロッキー山脈横断ドライブ」、松下さんの「鎌倉 - 金沢 400km 自転車旅」、ヤング野村・森川さんの「西穂高ジャンダルム登頂山行」、舟田さんの「深田百名山登頂経過報告」と盛り沢山の内容でした。それぞれ内容は異なっていますが、チャレンジ精神と周到な準備、そしてやり遂げる実行力は秀逸で、「さすがワングル魂ここにあり！」と敬意を表するとともに、「俺も頑張らなくっちゃ！」と勇気を授かったのです。

田村さん、佐藤さん、山村さん、伊藤さん、保田さん、山中さん

先発組として、3日間お付き合いいただき有難うございました。特に、金曜日の夜は、熱燗と濁酒を飲みながら楽しく懇談させていただきました。こんな時を持てるのが、スキー合宿の嬉しい特権です。また、金曜日の午後は、時々小雪が舞う中を一緒に滑りましたが、最後はスカイラインコースを完走され、皆さん前期高齢者とは思えぬ滑りでお見事でした。意欲、体力、技術、口力など皆様をお手本に、私も励んでまいりますので、また宜しく願います。

野村さん、辰野さん、上馬さん、舟田さん、飯田さん

今年もまた金沢から好天気を運んでいただき、有難うございました。セイモアや瀬名な

ど金沢にも新しいスキー場が出来ていると聞いていますが、やっぱり野沢の雪質は別格で、天気の良い中で滑ると「自分が上手くなった」と思えるのが野沢でのスキーの嬉しいところですね。今回、私は、あまり一緒に滑る機会が持てなかったのが残念でした。舟田さんも、飯田さんという良きスキー友を持ち、脚前を上げているようにお見受けしましたので、来シーズンはグレンデ上でもシッカリお付き合いさせていただきませう。

森川さん、Y野村さん

最後まで好天気にも恵まれ良かったですね。野村さんも、最後にはスカイラインコースをノンストップで滑走されたとか、流石ジャンダルムパワーですね。名古屋の異次元パワーを、今後ご披露下さい。

松下さん

若手代表としてのご参加、有難うございました。また、力強く格調高いプレゼンを有難うございました。「ヤル気と友情があれば何でも出来る」との見本ですね。また、「森のうた」のCDを野沢の宴に間に合わせていただき、嬉しかったですね。CD化された歌を聴くと「いい歌ジャン」と思います。山やスキーへの車中で聴いて楽しみませう。

上村さん、片田さん、高田さん

同期でありながら、いまだ実業の世界で忙しく働かなかで、ご参加いただき有難うございました。特に、片田さんにはアメリカ帰りでも衰えを知らぬスピード振りで、感嘆いたしました。でも当スキー合宿の前には、事前のトレーニングやストレッチをして体の調子を整えて臨むとともに、天気と雪質の良さについて調子に乗ってスピードを出して怪我などなさらぬよう注意したいものです。二人のKさんが、転倒と接触事故でシップ薬と絆創膏のお世話になったと聞いてはいますが、大事には至らず「まずは無事に終了」との認識の範囲内と思っています。お互い「歳ですから無理しちゃダメ」は肝に命じておきたいものです。でも、日頃の鍛錬によりマダマダ若さを保てることは、当スキー合宿参加の諸先輩が証明されていることでもあります。Tさんも、ダイエットと筋力強化で、また「山頂やまびこコース」を滑りませう。

さて今回私は、白馬47シニアスキー倶楽

部会員である保田さんと一緒に滑り「去年よりは確実に上達している」とのお墨付きをいただき、大きな自信を得たのでございます。

昨シーズンは、妙高のスキー教室参加と蔵王、志賀、野沢、ニセコ、八方と滑り回ったのですが、その投資が実を結びつつあると実感しており、喜んでおります。土曜日の朝一番のスカイラインコース滑降では、スピードでは保田さんには敵わなかったものの、硬いバーンに私なりのカービングターンを描くことが出来ました。また、日曜日の午後、チョット荒れた不整地のバーンでも、余裕を持ってスキーを操作できました。やまざとグレンデのリフト下の林間コースを自己責任で3回程滑ってみました。特に不安なしに林間滑降を楽しめました。

ただ、これは私個人の知覚であり、客観的に映像で捕らえて確認できていません。その意味で、加藤監督の不在は残念でした。加藤監督には、ぜひ我が成長の証を記録していただきたいものです。

今回も、18名もの方々が野沢温泉スキー合宿に参加されました。快適なスキーと本物の温泉と美味しい料理に愉快的な歓談、そして何時も楽しい野沢の宴。皆さん、それぞれに、存分に楽しんでいただけたと思っています。今回は、メンバー確定が遅れたこともあり、男性の半数にロビー上の大広間に泊まって頂きました。結果として、この大部屋も使えるとの確信を得られたことは収穫です。参加人数が20名を越えても対応できませう。来年は、今回都合により不参加となった方々と、「あいつを誘って野沢に行こう」と思うあいつ達を入れて、さらに楽しいスキー合宿になったら...と思います。

では、また来シーズン、野沢で会いませう！そして、私は「スイスアルプスの氷河スキー」の夢の実現に向け歩を進めて行きたいと思っています。



白山神駟道登山

4期 佐藤 秀紀

はじめに：

白山には三つの古道がある。すなわち、越前禅定道、加賀禅定道、美濃禅定道である。越前禅定道は平泉寺白山神社を拠点（馬場）とし、加賀禅定道は白山比咩神社、美濃禅定道は長滝白山神社（登拝基地としては白山中居神社（石徹白））をそれぞれ拠点とした。

この古道のうち、加賀禅定道（登山口は袈谷：一里野スキー場付近）と美濃禅定道を結んで白山登山を行い、古道を体験するというイベント「白山神駟道登山」が白山神駟道登山文化振興会（主幹西嶋鍊太郎氏）の支援のもと平成18年から毎年9月連休に行われている。「神」は加・美、「駟」は掛けにも通ずる名称とのことである。加賀から美濃へを「順駟け」、美濃から加賀へを「逆駟け」と称し、この長距離を一日で歩くのを「荒行」、二日で歩くのを「難行」と呼んでいる。登山路は加賀禅定道18km、美濃禅定道19km合計37kmあり、順駟けの場合の累積上りは3225m、下りは2825m、でかなり厳しい。

このイベントは白山古道を広めるとともに、「安全を第一にして夜露の煌き、風吹き渡る朝露の峰々、ご来光、這松の香り、要所の伝来、その日に同じ神駟けを行う方々との長い長い道連れ交流を楽しむ登山である」（「白山神駟道へのお誘い」振興会文書より）

このイベントは、基本的には各個人の責任で行う登山を、移動や遭難時の対応について振興会が支援するという主旨になっている。

以前から興味を持っていたが、知人からお誘いもあり、今年初めて参加した。今年2010年は5回目のイベントで「逆掛け」である。逆掛けの標準登山時間（コースタイム）は23時間30分である。石徹白登山口（標高950m）から上り、銚子ヶ峰、三の峰、別山(2399)、南竜が馬場、御前峰頂上(2702)、大汝山(2684)、四塚山、天池、奥長倉、しかり場、袈谷登山口(650)に下り、一里野ゴールポイントまで。これを一日で歩く「難行」に挑んだ。

9月18日（土）金沢から石徹白登山口まで車で移動。夕食後テントで仮眠。午後11時頃に起きて準備。駐車場東屋に集まり、西嶋さんから資料配布、諸注意説明。記念撮影をする。

参加者総勢13人（岐阜6、石川7；男10、女3；平均年齢52.7才）



スタート写真（前列右から3人目筆者）

石徹白登山口 別山：

9月19日（日）午前零時少し前、登山口をスタート。暗闇の中をヘッドランプを頼りに登山口からの石段を上る。途中登山道が崩れているところがあり、暗闇の中ヘッドランプだけで上にある道を探すのは難しい。次に来る人をしばらく待ってライトで教えてあげる。その人は夜は目が悪いので難渋する、と嘆いていた。1時間ほどで神鳩小屋(1560)に着く。数人が休憩している。規定に従い私も10分ほど休み、通過票を小屋の壁にピンで留める。あたりはガス（霧）がたちこめライトでも見通しが悪い。銚子ヶ峰まで上り、さらに、一の峰、二の峰と上り下りをくりかえす。登山道は笹が生い茂り、夜露で下半身がびしょぬれである。暗闇の中、ヘッドライトで周りだけがぼおっと明るくなった山道を熊よけの鈴の音を聞きながらもくもくと独り歩いていくと、物の怪が現れそうな気もするし、修験者の気分にもなる。ようやく三の峰の標識に至る。ところが避難小屋がわからない。後から来た人に聞くと、小屋を通り過ぎてしまったらしい。初めての山道を暗闇の中ガスで下ばかり見て歩いていたらため見落としたらしい。何としたことかと思いながら、しばらくもと来た道を下って小屋を見つける（4時）。しばらく休憩後出発。三の峰から再び下って別山への上りになる頃、ようやく空がしらじらと明け始めた。しばらくするとガスは薄れ、雲海の彼方に赤くなり始めた空を背景に御岳山の黒い姿が浮かんでいるのが見えた。素晴らしい景色である。5時半、ようやく別山に到達。ひょっとしたらご来光が見えるかもしれないと思われたが、残念ながらガスに囲まれて見られなかった。

別山 御前峰・大汝山：

別山を後にして歩き始めると次第にガスが晴れて、遠く白山主峰御前峰が見えてきた。花はシーズンを終わっているがイワショウブが赤い実をつけているのが美しい。途中、天池にて雲海を見ながら休憩。いつも朝ここを通るときはコーヒーを沸かして飲むのだが今日は先を急ぐ。石でゴロゴロの油坂を下って赤谷に出て、少し上がれば南竜ヶ馬場。湿原にイワイチョウの群落が黄色く紅葉して一面に広がり美しい。7時半、南竜山荘に至る。通過票を貼り付け、休憩して食事。トンビ岩コースを登って室堂へ。途中シラタマの白い実が沢山なっていた。8時55分室堂到着。サポーターから労いの言葉をかけられ、久し振りで会話を交わす。売店でカップラーメンを購入して食事。メンバーの一人が先着しており、後続の様子など聞かれしばし情報交換。20分ほど休憩後、水補給。これからの道には水場が無い。御前峰に上る。9時48分御前峰頂上。別山方向を眺めると登ってきた山々が遠く見えて、よく歩いてきたものだとわねながら感心する。遠く槍穂高連峰も見えてよい天気である。

御前峰から千蛇ヶ池に下って大汝山に登る。ここの上りは岩が多くてしんどい。10時半、大汝山の避難小屋に至る。ここで、石徹白出身のメンバーの人と一緒に、ものを食べながら、石徹白についていろいろ話を聴く。昔は村中の人達が白山中居神社に仕えており、地区は神領として年貢が免除されていたこと。地区の「御師」によって白山信仰が全国的に広がったことなど。昔の登拝基地として唯一残っている集落である。一度ゆっくり訪れてみたいものだ。

大汝 奥長倉：

大汝山からは緩やかな尾根をほとんど下る一方である。お手水鉢、七倉の辻、四塚山。これから下って行く峰が一望に見渡せて気持ちがいい。しばらく行くとハイマツに囲まれた道の真ん中に見事に盛り上がった黒い巨大な固まりを発見。熊の糞である！今年は室堂から頂上への上り道でも熊を見かけたというので驚いていたのだが。あわてて付けていた熊よけの鈴を確かめると、なんと紐が切れて鈴がないではないか！弱ったことになったが運を任せるほかは無い。なだらかな尾根道を下がって行くにつれて、右側には谷をへだてて岩間道側の広大な清浄ヶ

原が広がってくる。ふりかえれば大汝山が高く見える。ひろびろとした素晴らしい景色である。あたりにクロマメノキの黒い実が沢山なっているところで一休みする(12時43分)。そのうちポツリと雨。こんなところで雨に降られては大変と急いで歩き始める。13時、天池(加賀室跡)。しばらく歩くと百四丈の滝が見える。古道登ってきた人達にはどんなにか神々しく見えたであろう。さらに加賀禅定道でも難所といわれる急坂の美女坂を下る。かなり足が疲れてきており慎重に下る。14時、奥長倉小屋に到着。最後の通過票を貼り付けてしばし休憩。

奥長倉 ゴール：

小屋でまた石徹白出身の方と出会い、小屋から一緒に四方山の話しながら歩く。やはり話をしながら歩くと気がまぎれて疲れもやわらく。旅は道連れである。そろそろ疲れがでてきたせいもあるが、しかり場分岐がなかなか現れない。15時37分ようやく分岐着。しばし休んで、彼には前にいってもらおう。暗くならないうちに登山口まで下りたいので、なるべく早く歩すが、延々と緩やかな下りが続く。最後に高圧線の鉄塔下に出てようやく葎谷登山口へ到着(17時)。なんとか明るいうちに山道を終えることが出来た。道路に出て冷たい流水で顔を洗ってさっぱりする。道路を歩いて、17時30分、一里野の温泉施設近くの林の中にあるゴールポイント、ログハウスに到着！西嶋さんが温かく出迎えてくれた。かくして白山神駟の長い行程を無事終えることが出来たのである。最終到着者は午後8時、最速は午前10時台だという。一人は室堂でリタイヤ。

終わりに：

このような登山は経験が無く、当初はどのような登山になるか見当がつかなかった。歩き通せるのかすらも自信がなかった。計画書ではコースタイムの23時間30分で記入しておいた。結果は17時間半、なんとか明るいうちに無事完踏できた。お世話になった方々にこころより感謝したい。

よりハードであると思われる順駟も試みたい気持ちもあるが、来年のことだ。どうなることか。諸兄はいかがか。

錦秋の山と湖の旅

8期 篠島 益夫

旅の期間: 2010年10月20日(水)~23日(土)
メンバー

6期小川修司、7期村田泰恵、8期篠島益夫・
節子、高水間淑子、9期山中重夫 計6名

このパーティーは2008年6月の屋久島ツアー参加者がメインになっていますが、KUWVO B近畿会員宛のメールで公開募集したメンバーです。パーティーの半分余りのメンバーは2008年6月屋久島縦走、2009年10月白神・八甲田・十和田、2010年6月利尻・礼文、更にこの10月南東北の旅、と続いています。今回も皆さんを沸かせる東京の9期山中重夫さんが今回もムードアップ役を引き受けてくれた上、連日の好天にも恵まれて笑いの内に旅が終わりました。

今回10月の南東北の山は磐梯山(1819m)、西吾妻山(2035m)、安達太良山(1700m)と日本百名山ながら標高も低くロープウェイ、リフト優先登山でしたので正味の登山は数時間のハイク並みで素晴らしい秋の展望を愉しむことができました。第一泊目の会津若松在住の田村先輩との合流は「南東北の旅」を愉しむに相応しい一夜になりました。

10月20日(水)曇り後晴れ 会津市内観光

5人は大阪空港10:55発ANA福島便、山中さんは八王子の自宅を出発、福島空港でレンタカー2台を借りて会津ワシントンホテルで合流、市内観光に出かけました。



飯森山へ、丘にはエスカレーターで登るいや徒歩で登ると言う方もあったが、少数意見の為、切符を買ってエスカレーターに。(古いワンゲルだから仕方が無い)



飯盛山、鶴ヶ城、御薬園からホテルに戻って田村先輩に連絡、合流。先輩の案内で市内中町の和風レストラン「くいしん坊」に案内され、会津名物の芋煮汁、馬刺、そば、ソースかつ丼...会津ワイン、最後は女将さんの姉さんの農園で作ったびちびちのピオーネで仕上げ、良く食べよく飲んで会津を堪能できました。持つべきはよき先輩です。

10月21日(木)曇り後晴れ 磐梯山(1819m) 五色沼

この日は磐梯登山で会津から桧原湖に向かうゴールドラインの八方台駐車場からの頂上往復予定の為、早めの出発を予定していたが、更に朝が早まった。

昨日会食事に聞いていた「四高南下軍歌碑」を田村先輩の案内で登山前に訪れる事にしたので、6時過ぎには田村先輩にホテルに来て頂き、案内役で6時半にはホテル出発、東山の天寧寺に向かう。



田村先輩達のご尽力で会津市天寧寺町の天寧寺境内に四高南下軍歌碑が建立されています。

田村先輩とは天寧寺でお別れして、レンタカー2台はゴールドラインを八方台登山口に向かう。ガスと曇りがちだった朝の天候も次第に明るくなってきた。



ブナ林の中を歩く、中の湯を過ぎると傾斜のきつい登りも出てくるが、ブナの純林は変わらない。今回のツアーでは歩行4時間弱予定のコースタイムで、この旅では最長、これを5時間余りかけて遊んできました、頂上からの視界は霞んで今ひとつでしたが、弘法清水からはこの火山の様子がよく見渡せました。

10月22日(金) 天候 晴れ 西吾妻山(2035m)

昨日は磐梯山登山を終えて桧原湖畔の五色沼探勝コースを1時間余りで全コースを歩きその後、西吾妻スカイバレーから山形県側の白布温泉に泊った。

五色沼は明治の噴火で出来て以来沼の周りも変化しているようで話で聞くほどの景観の連続というわけではなく、昨年の白神十二湖に比べても小粒という印象だった。これを2組に別けて東西の端から2班に別けて歩き、途中でキー交換して集合地に集まる昨年の奥入瀬方式だったが、集合したケーキ屋で誰かがもう1つ食べたいなあ、と言ったら店員が「今日はこれで閉店なので食べてください」と言ってくれたので、アップルパイがもう1個食べられるという特典もあった。今日はロープウェイ、リフトの運行は8時20分からなので、朝は温泉に浸かったりゆっくり準備出来た。

ロープウェイとリフト3本を乗り継いで50分、それからは登山、木道あり、ゴロタ岩あり、西吾妻のかもしか台、天狗岩、梵天岩などのピーク巡り。

かもしか展望台



10月23日(土) 晴れ 安達太良山(1700m)

奥岳温泉富士急ホテルの前からゴンドラに乗って薬師岳、そこから頂上と周辺ウオークで同じコースで戻って温泉入浴の汗流しと昼食の後、福島空港へ向かう最終日である。この日の朝は雲海がホテルからも良く見えて、天気はベストで薬師岳では「こんな濃い青い空は釧路を出てから何十年振り」という感激を味わった、智恵子もこんな空が見たかったのだろう。



薬師岳展望台

東西北方向には抜群の展望で抜けるような濃い青い空と火山の荒れた風景がよくマッチしていた



「この上の空がほんとうの空です」
二本松市が光太郎ゆかりの地なら表現も他になかったのだろうか。大きなポールも無かった方が良かったかも。

(後記)

屋久島由来のパーティーを中心にそれ以来4回のイベントを募集実施してきました、中心メンバーの皆様にもいろいろなニーズがあり、シーズもあると思いますので、候補地と歩きの内容をダイジェストしたご意見お伺いアンケートを近いうちに送らせて頂き、来年以降の企画に生かしたいと考えております。 完

ツールド能登 400、参戦記

~能登半島、ぐるりと一周 400 キロ~

20期 松下 和隆

1. 終わりは、始まり

自転車の旅は、終わらなかった。

去年の秋、鎌倉から金沢までの400キロを自転車で走った(やまざと Vol.24、地を這うワンダラー)。太平洋の水を鎌倉(由比ガ浜)で採取し、北アルプスを越えて日本海へと運んだ。ただそれだけのために、自転車を走らせた。

「お父ちゃん、そんなバカなことはやめて！」と言う家族からの大いなる声援。これに応えにやらぬ。そう解釈した僕は、金沢に向かってひたすら爆走したのだった。内灘で、太平洋の水を日本海へと放つ。その一滴が日本海と出会った瞬間、僕の心に新たな化学反応が始まった。魂が踊る。魂が燃える。今年もまた、僕は内灘へと戻って来た。

2. ツールド能登 400

自転車で能登半島を一周する。3日間で410キロを走破する。人はそれを「サバイバルサイクル」と呼ぶ。そんなイベントがある。それを知ったのは、去年の秋だった。金沢駅近の「座談」という飲み屋。H氏らと一緒に、冒頭完走の喜びを分かち合っていた。そのとき、店のマスターが教えてくれた。

「あんた、ツールド能登に出てみまっし」
第22回ツールド能登400。内灘をスタートして、再び内灘に戻る。コースの全貌は次の通りである。

9/18(土) 走行距離(125km)
内灘 宝達志水 巖門 門前 輪島
9/19(日) 走行距離(166km)
輪島 金剛崎 桜峠 穴水 能登島
9/20(月) 走行距離(118km)
能登島 七尾 氷見 高松 津幡 内灘

3. 講習会、小嶋敬二の太もも

石川県が生んだバルセロナオリンピック選手、小嶋敬二氏。その人が、今大会の指導員として特別参加していた。僕は大会前日の講習会で、彼から直接指導を受ける幸運を得た。パイプ椅子に座って語る彼。椅子に収まりきらない見事

な太もも。圧巻だった。周囲74cmの太ももは、日本競輪界随一の太さである。まさに、丸太ん棒、である。その足に、僕はうっとりした。熱い眼差しでずっと見つめていた。一流選手のオーラというもの。それは、確かにあった。

4. 巖門、機具岩

なんじゃ、こりゃ！ と驚くばかりの見事な景観。内灘をスタートして60キロ。巖門、機具岩に出くわした。日本海の荒波が創造した芸術作品。空は広く、海は青し。茶色の岩肌に松の緑が美しい。その傍らを自転車で走る。爽やかな秋風が全身を包む。まさに至福の瞬間。ここはなんのし写真を撮らにゃ！ 先を急ぐ気持ちを抑え、カメラを準備した。

キグイワ、キグイワ・・・と呟きながら写真を撮っていたら、隣からお姉さまが教えてくれた。「ハタゴイワ、て言うのよ・・・」



5. 輪島、民宿さかした

食いきれねえーよ、おばちゃん！

それはそれは、見事な夕食。さすが輪島ですな。1人10品以上はあったはず。海の幸を中心に、出るわ出るわ、料理の数々。一緒に走ったT氏、M氏、それに僕。3人で、とにかく根性で食いまくった。M氏などは、完食と思いきや鍋の横に茶碗蒸しを発見。しばし躊躇している様子。僕はひとこと背中を押してあげた。

「Mさん、ここはやっぱり一気に食べにゃ、明日は166kmの長丁場やし...」

M氏は食べた。見事完食。ちょっぴり青ざめた顔して、ニッコリ微笑むのであった。

6. 輪島、ご陣乗太鼓

腹ごなしに、M氏と夜の輪島を散歩した。これは大収穫であった。メイン通りで始まった、

ご陣乗太鼓。それに出会えたからだ。これは、すごい。初めて聴いたが、この太鼓のサウンドは、まさにソウルだ。輪島に攻め入ろうとする敵陣（上杉謙信）を追い返すために打たれた太鼓。武器を持たない漁村民が、海草と木の皮だけで化け物に扮装し、太鼓を打ちながら敵陣に乗込む。一か八かの賭けだ。敵に扮装がバレたら、もちろん皆殺し。生きるか死ぬかの瀬戸際で打ち鳴らす太鼓には、身に迫るものがある。何気なく聴いていた通りすがりの観光客も、みんな最後は、スタディングオーバーション。歓声の渦に包まれた。

7. 千枚田の結婚式

輪島から 10 キロほど走ると千枚田に到着する。秋の千枚田は、格別だ。あたり一面が黄金色に染まる。僕たちの自転車は、その中へと吸い込まれていく。道の沿道にやたらと車が駐車している。はて何事か。田んぼの中に紅白のステージ。結婚式をやっているのだ。オシャレというか、粋というか...

しかし新郎新婦は、いったい何を前にして永遠の愛を誓うのだろうか。ピョンピョンと跳ねているバツタだろうか。

8. 桜峠、時速 66 km の体感

いかん、いかん、のんびりなんぞ、しとれんのだ。これはサバイバルサイクルなのだ。出走制限時刻があるのだった。恋路海岸を過ぎ、桜峠（232m）に着いたのは 15:45。桜峠の出走制限時刻は 16:00 だった。残りわずか 15 分でタイムアウトだ！係員がメガホンでしきりに警告する。

「え～、16:00、16:00 が出走制限時刻です。

え～、残り、残りわずか 15 分です。

え～、お早め、お早めにお出かけください」うるせえー、このやろう、わかっとるわい。と心の中でつぶやく。焦った。休憩もそこそこに出発。この遅れを取り戻すには、もはや峠の下りを利用するしかない。変速レバーをカチカチと操作し、ギアをトップに入れる。そして、このときばかりは、ペダルをこぎにこぎまくった。出た、時速 66 km。振動で自転車が分解するかと思った。しかし、快感だ！おかげで、タイムアウトの危機は脱出。何とか完走証をゲットすることができた。

9. 能登島、バトル、小学生

タイムアウトの危機に直面していたのは、何も僕だけではなく。僕の後ろを走っていた父と子もそうだった。父が息子（小学校 6 年生ぐらい）に向かって叫んだ。

「先にゆけ！ オレのことはいいから...。お前だけでも、ゴールしろ！」

それを聞いた息子。がぜん頑張り始めた。僕の後を付いてくる。しつこく付いてくる。能登島へ渡るツインブリッジを過ぎても、まだ付いてくる。ついには、上り坂で僕を抜きやがった。

「なぬ、小僧、やる気か」と、今度は僕が抜き返す。このバトルを、能登島のアップダウンで数回ほど繰り返した。しかし、いかんせん、僕はゴール近くで目測を誤った。あと 1 km、そう思った僕の目の前に、無情の標識が現れる。

「マリンパークまで、6km」

あかんわ、もう～え～。オレの負けや。

あっぱれ小僧！ お前の勝ちや。

10. 津幡、自転車ガール

近年、山では「山ガール」なるものが流行っている。ファッショナブルな服装や装備で身を固め、山を歩く女性のことだ。自転車の世界にも同じ人種がいる。「自転車ガール」だ。艶やかなスーツに、デコレーション付のヘルメット、そしてピンクの自転車。いかにも華やかで楽しそう。ただし、山ガールとは異なり、ちょっぴり攻撃的なのである。彼女らは、相手がとろくさいと判断するや、すぐさま追越をかけて来る。

「アタシ、今からあなたを抜くわよ」と言わんばかりに、背後からチリンチリンと鈴を鳴らしながら迫り来て、そのまま抜き去って行くのだ。

「俺は熊なのか」と思ってしまふ。恐るべし、自転車ガール。

11. 再び内灘、ミルクティ

ゴール！内灘に再び戻って来た。後輩のNちゃんが、あったかいミルクティを差し入れてくれた。共に走ったT氏と、フーフーしながら飲む。緊張が氷のように融けていく。ありがとうNちゃん。ありがとうO先輩（Nちゃんのパパ）。



現役生のページ

こんにちは！ワンダーフォーゲル部現役主将の中村です。今年は11人の新しい一回生が加わり、34人で活動してきました。そして、11月に新しい一回生が2人入ってくれ、ますます賑やかになっています。今回は、その活動を現役生の皆の感想を踏まえて紹介していきます！

夏合宿!!コーナー

南アルプスパティー 8/4~8/11

L：月僧 博美 /sL：平野 友理

パーティー名：月っパー

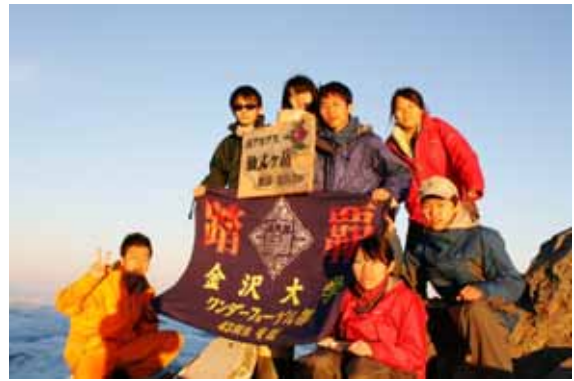
ルート：甲斐駒ヶ岳 千丈ヶ岳 三峰岳 間ノ岳 北岳

-感想-

- ・今年の夏合宿で私は、甲斐駒ヶ岳、千丈ヶ岳、三峰岳、間ノ岳、北岳というように、南アルプスの北側をぐるりと縦走しました。まず、登山口の北沢峠では、これでもか!というくらい満天の星空をみました。なんだか泣けてきました。千丈では、美しい御来光を見ることができました。朝焼けの中に見える富士山と北岳の姿は本当に見事でした。北岳では、稜線をはさんで片方には雲海に沈む美しい夕日、もう片方には甲府の夜景が見えました。山の自然と、人間の暮らしというものを同時に目の当たりにし、とても不思議な気分になりました。このように、合宿中様々な美しい景色に感動し、心洗われる思いがしました、その一方で、リーダーという立場にあったことで、多くのことを学び、考える山行でもありました。ワンゲルのみんなと、山の神様に心から感謝しています。

3回生・月僧

- ・現役最後の夏合宿ということで思い入れも思い出も3年間で一番ありますが、その中でも印象深かったのは仙丈での御来光でした。持ち前の運のなさか、私は今までの山行で一度も御来光を拝めたことがありませんでした。今年こそはという思いで臨んだ夏合宿で、天気にも恵まれ最高の状態で御来光を迎えることができたあの瞬間は、今でも鮮明に記憶に残っています。 3回生・平野



- ・初めての夏合宿ということで、楽しみであるという気持ちと同じ位に不安な気持ちもありました。実際、長い行程の登山は苦しい面も多く、先輩方に励まされてやっと登りきれたという感じでした。しかし、同時にそれに見合った素晴らしい景色に感動しっぱなしの一週間でもありました。天候にも恵まれ、ご来光や夕暮れの美しさも堪能することができました。景色のいい場所に出ると、それまでの辛さが一気に吹き飛んでしまうのは本当に不思議なことだと思います。

1回生・遠藤

北海道パーティー 8/16~8/27

L：古木 康大 /sL：林 直樹

パーティー名：TACOPA

ルート：利尻岳(ワンデリング) 旭岳 間宮岳 北海岳 白雲岳 忠別岳 五色岳 トムラウシ 化雲岳 小化雲岳

-感想-

- ・北海道の利尻岳と旭岳からトムラウシまでの表大雪山縦走を行ってきました。北海道では記録的な豪雨が続き天候は不安定でしたが、大部分は日程通りに怪我人もなく山行を満喫できました。特に印象深かったのは表大雪山縦走時、ヒサゴ沼避難小屋からトムラウシまでの往復路。日本庭園・ロックガーデンを経由するあの道は、私達を異世界・非日常に容赦なく引きずり込みます。刻々と山は様相を変え、時々聞こえるナキウサギの声があちこちから私達を出迎えてくれました。北海道は中央アルプスよりも普段の生活とは異なった、いわば 日常から隔絶された世界 を、来訪者に提供してくれるように感じました。それぞれの山に優劣はないと考えますが、北海道は私のベストなお薦めです。

3回生・古木

- 旭岳へ登る前のテント場で、熊についての注意を受け、改めて熊の多い山域だということが感じられ、緊張しましたが、特に出くわすこともなく本当に良かったです。昨年は南アルプス、一昨年は北アルプスへ登りましたが、それぞれの山とはまた違った雰囲気を感じることができました。体力や天候に合わせてペースやルートを調節していったので、無理なく歩き続けられ、晴れている日も少なくなかったので、最終日を除いて気持ちのいい山行でした。 3回生・林



- 今夏の最少パーティー、5人で北海道を目指した私たち。フェリーと車を駆使して...着いた！北海道！！利尻岳では朝4時行動開始だったため、山行途中で御来光を見ることができ、楽しい山行だった。今回のメインである大雪山縦走。旭岳から入って北海道・白雲岳などを制覇。しかし後半になって天気の流れ。最後のトムラウシは無事登頂できたが、下山時にはなかなか苦戦した。(加えてまさかの道路崩落。Unbelievable!) それでも全体を振り返ってみると良い思い出しか残っていない。終わりよければ全てよし！ 2回生・大嶋

北アルプスパパーティーその1

L : 白石 浩貴 /sL : 影山 麻里
 パーティー名 : 白パー 8/23~8/31
 ルート : 立山 薬師岳 雲ノ平 水晶岳 鷲羽岳 双六岳 槍ヶ岳

-感想-

- ただ山に登っただけじゃない。もっと大事なものを得られた夏合宿だったと思います。リーダーとして行った最後の夏合宿はそれだけ印象に残るものでした。行程は立山から薬師岳を経て、雲ノ平に至り、水晶岳に鷲羽岳、

西鎌尾根から槍ヶ岳を踏破するものでした。幸い天気には恵まれました。しかし、山というリスクにあふれ、かつ閉鎖的な環境に1週間以上行くにあたり、リーダーとして幾重もの葛藤も内心にありました。結果として全員無事に楽しい夏合宿を終えることができ、そうした経験と共に、決して忘れられない思い出になりました。 3回生・白石

- 今年3年目の北アルプス、そして槍ヶ岳に登りました。立山から出発し、雲の平を越えて槍ヶ岳山荘に辿り着きました。途中台風の心配もありましたが、天候にも恵まれて、テント場からの朝日は忘れられない光景となりました。頂上に登る途中、これまで3年間の合宿で一緒に過ごした仲間の姿や光景がよみがえり、感慨深い思いがしました。同時に、一緒に登る仲間の存在の大きさを強く感じました。反省点もありましたが、学ぶことも多く充実した山行となりました。

3回生・影山



- 初めは、一週間も山にいるなんて嫌でした。生活は不便だし、衛生的にも不潔だと思ったからです。しかし、夏合宿に実際入ってみると、嫌だという気持ちには全くなりませんでした。北アルプスの広大な自然の中にいることはむしろ気持ちのいいものでした。町にはない澄んだ空気、遠くまで見通すことのできる風景は普段の生活ではなかなか経験できるものではありません。これからの登山が待ち遠しいくらい良い経験となりました。 1回生・坂田

北アルプスパパーティーその2

L : 中村 賢人 /sL : 馬場 千尋
 パーティー名 : 天パー 9/5~9/12
 ルート : 燕岳 大天井 上高地(エスケープ) 焼岳(ワンデリング) 前穂岳(ワンデリング)

-感想-

- ・今年で最後となる夏合宿。当初は大天井から槍ヶ岳に行き、その後涸沢ヒュッテを經由して穂高岳山荘へ行き、槍穂高連峰を堪能しようという計画でした。しかし、出発前から気になっていた台風が、ここ北アルプスを通過するということが大天井で判明。そこまで遠くない距離にそびえていた槍ヶ岳をカットして、上高地へエスケープしました。これで夏合宿が終わってしまうのではないかと心配しましたが、上高地で台風をしのいだ次の日からは快晴が続いたので、焼岳と前穂高岳に登ってきました。皆で初めて登った3000m峰である前穂高岳は、一直線に直登するルートなこともあり、登頂時はメンバー全員疲れ果ててしまいました。しかし、強風の中で見た景色はとても綺麗で、登りきったという達成感を味わえました。夏合宿のリーダーとして、皆に縦走を経験させてあげられなかったのが一番の心残りですが、みんな無事に楽しく山登りができたということが、何より嬉しかったです。皆、ついてきてくれてありがとう！ 3回生・中村



- ・3回生の、ワングルで最後の夏合宿は、これまでの中でも一番波乱含みの夏合宿でした。その主な原因は台風でした！台風接近のために風雨が強くなり、安全確保のため槍ヶ岳はカットとなってしまいました。一時は落胆したものの、その代わり予定にはなかった前穂高岳と焼岳に登ることができました。結果的には槍には残念ながら行けなかったけれど、それに負けず劣らずの充実した山行となったと思います。天然パーマの頼れるリーダーと、個性豊かな濃いメンバー達との、皆が一皮むけた爽やかで濃いひと夏でありました！ 3回生・馬場

- ・僕は大学に入って初めて登山を始めました。今回の夏合宿で本格的な3000m級縦走を行うということで、本当に楽しみにしながら出発地まで移動しました。しかし、合宿は台風の接近で計画通りには行かなくなりました、途中下山せざるを得なくなり、目標の槍穂に登頂できませんでした。ですが、天候不良は登山には付き物です。この合宿でまず「安全」が第一だということを実感できたという点で、決して無駄な経験ではなかったと思います。 1回生・古田

裏夏合宿

L：金沢 輝久 /sL：杉山 貴彦

パーティー名：?? 9/16~9/20

ルート：赤岳 硫黄岳 中山 茶臼山 縞枯山
北横岳 双子岳 蓼科山

-感想-

- ・学生生活最後の夏の縦走を八ヶ岳で楽しみました。登る前の勝手なイメージで八ヶ岳は登りやすい山だと思っていました。しかし、実際に登ってみると思わぬところで岩場が出てきたり、短いながらも急登があったりと意外に苦しめられました。やはり、山は侮るものではないと感じました。また、主要な峰では天候に恵まれ良い景色を拝むことができました。ただ、9月下旬に山行を行ったため、山頂では体を震えさせる羽目になってしまいました。ゆっくりと山頂を楽しむには8月がベストだと痛感しました。夕食は豪勢にしようと焼肉や鍋を採り入れました。おいしくご飯が食べれたり、温泉に入れたり、何よりも4回生で山に登れたので、大いに楽しむ事ができました。 4回生・杉山

- ・途中から合流して一緒に登るという形になりましたが、今度行く時には、八ヶ岳は絶対縦走したいですね。

4回生・山形



1・2年山行

L：中村 賢人 sL：白石 浩貴

ルート：金沢 広島県（厳島神社） しまなみ海道横断 愛媛県（道後温泉、松山城） 香川県（金毘羅さん） 金沢

-感想-

- ・今年の1・2年山行は、四国、中国地方へ行ってきました。当初、四国の百名山である剣山と石鎚山に登ろうと計画していましたが、出発直前に異常なまでの積雪があり、依然として冬山の状態だったので、登山を断念しました。その代わりに、しまなみ海道を歩いて横断するなど、アクティブなことをしてきました。部長となって初めての行事であり、初めてのリーダーであり、反省点が多く残る山行でしたが、指導するものとしての態度や立ち振る舞いなどを実践で学び、とても良い経験になりました。 3回生・中村
- ・今年の1・2年山行では、四国に行きました。印象的だったのは、先輩方の優しさです。中村先輩を始めとした先輩方のおかげでとても楽しい山行になりました。僕たち、1年生（現2年生）も後輩に対して優しく接し、雰囲気の良い金大ワングルの伝統を守って良きたいと強く感じました。素晴らしい先輩方と仲間達に巡りあわせてくれた、山の神様に、僕はエールを送ります。 2回生・平松
- ・出発前日に知らされた突然の事実。石鎚山に登れない！部長からのメールで僕はまさかの中止もありうるのではという念に駆られます。春休み最後の楽しみだった…。かなり前から期待していました。意外とまだ一緒に登っていない先輩方もいたのに…。ですがそんな心配も杞憂でした。登山こそできなかったものの、「景色を楽しみながら歩く」という行為ができたことを全員と共有できた。景色が山でなく海だっただけ（ワングルとして



いいことではないとは思いますが...）。こうして1・2年全員で旅をすることもないだろうから貴重な体験でした。今年も楽しみです！

2回生・渥美

PW!!コーナー

-荒島PW-

- ・前々から荒島に登った人達の話聞いて、自分も一回は行ってみたいと思い、PWに参加しました。スタート地点はスキー場で、コンクリートの道を登り、普段とは一味違う登山道を満喫できました。途中から始まる急な登りがきつかった…。以前からトレ山で登るパーティーがいましたが、なるほどトレ山で選ばれるわけです。登っている最中は、大きな木の葉っぱによって周りの景色が見えませんが、太陽の光に輝く木の葉がとても綺麗だった覚えがあります。また、大きなこぶがあつたり、真ん中が空洞になっていたり、珍しい形をした木々が沢山あり、それを見ながら登るのがとても楽しかったです！山頂では意外と人がいましたが、遠くの景色まで見えて、最高の風景でした。晴れていて本当に良かったです。 3回生・中村

-中央アルプスPW-

- ・梅雨シーズン直前の6月、新緑生い茂る中央アルプスへ行ってきた。計画に当たって、2年の平松が「ワングルぬるいっす！！」と何度も言っていたので、行動時間が1日10時間を越える空木、木曾駒という超絶PWを企画した。その結果、自分を含めた4回生2人と院生2年の横山さんの長老組、それに2年の平松、渥美を加えた計5人が集まった。平松に音を上げさせよう！と意気込んでスタートしたが、行程の半分を前に長老組が早くもバテてしまい…。即座に計画変更。2日かけて空木岳から南駒ヶ岳へ行くことにした。近年ではワングルで中央アルプスに行く機会はなく、また周りに南アルプスや八ヶ岳のようなメジャーな山脈があることから、正直、地味な印象しか持っていなかった。でも、実際に登ってみると、大地獄、小地獄のようなスリリングで面白い場所から、メジャーな山脈にも劣らないぐらいの気持ちいい稜線歩きを楽しめた。残雪もあったためか登山者も

少なく、アルプス独り占めが味わえる非常に
“お得”な登山スポットだと感じた。

4回生・金沢



-富士山PW-

- ・日本にいるなら一度は富士山に登っておかなければという気持ちがあったので、私は富士山PWに参加しました。

三連休を使って登った富士山は、それはそれは人が多くて大変でした。1日目の夜遅く、もう真っ暗だということに八合目の小屋から見下ると、ヘッドランプの明かりが列になっていて、まだたくさん登っている人がいるというのがわかりました。また、2日目の朝2時ころには既に八合目の小屋の前の道が登山客でいっぱいでした。道幅いっぱいに人が並んでおり、動かない状況だったのには唖然とし、標高3,000メートル近い所にこんなに人がいるのを不思議に思いました。2日間ともとても天気がよく、雲の切れ間からみえた湖や住宅が他の山から見下ろす景色とは少し違って面白かったです。とても良い山行でした。 2回生・飯島



-火打・妙高PW-

- ・紅葉の時期に山に登ってみたいと思い、新潟の火打山・妙高山に一泊二日で行った。一日目は生憎の雨であったにも関わらず、登山客は沢山いて人気のある山なのだと感じた。その日行った妙高山は山頂で景色は見えなかったが、山頂までの道のアップダウンが激しかった分、登りきった時には達成感を感じた。二日目には雨は止み、晴れてきたので火打山からの景色も楽しめた。また、今回の山行のメインである紅葉真っ盛りの高山の湿原は赤、黄、緑のコントラストが綺麗でとても素晴らしいものだった。今回は、PWだけのメンバーだったが、皆元気で体力があったのでリーダーの私も山を楽しむことに集中できたと思う。火打山・妙高山はアルプスとは違う高山の湿原を楽しめる良い山だと感じた。 2回生・片田

【主将後記】

如何でしたでしょうか？

今年の夏合宿は、アクシデントに見舞われることが多かったです。特に、北海道パーティーと自分の北アルプスパティーは、自然災害によって行程に大きな影響を与えられました。しかし、メンバー全員が的確な行動をとってくれたおかげで、皆無事に合宿を終えることができました。各リーダーを始めとする、3回生の指示に従ってくれた下回生にとっても感謝しています。

そういえば、自分(中村)がリーダーの時は何かトラブルが起こるという現象は、一体どういうことでしょうか。(今年度、中止となってしまった小屋作業も、現役生のcLは自分でした。)今年の1・2年生山行で行った厳島神社で凶を引いただけあります。次に登山を計画するときには、今度こそ成功させたいですね。

それでは、これで現役生の活動報告を終らせていただきます。これからの現役生の活動に、御期待ください！

中国で陶芸家として活動するということ



日本工芸会正会員
陶芸家 中村 元風

日本人が、中国で陶芸家として活動するという事は、いわば中国で中華料理店を開くようなものである。

容易なことではない。

チャイナ (= china) が英語で陶磁器を意味するように、中国は世界一の陶芸王国である。

陶磁器技術の多くは中国に起源がある。

2004年5月、私は加賀市日中友好訪問団の一員として初めて中国景德鎮を訪れた。

たまたま同年10月に第1回中国景德鎮国際陶磁博覧会が開催され、そこに参加したことから中国とのつきあいが始まった。

第1回目の博覧会では、中国人の陶芸作品に対する熱い眼差し、作品を欲しがる熱い気持ちに接し、衝撃を受けた。日本では見たこともない光景だった。

近いうちにこの国で自分の作品が求められる時が来ると直感した。



毎年博覧会に参加するうちに、私の作品に注目してくれるコレクターや美術商、また認めてくれる陶芸家や陶芸専門家達が生まれ始めた。

特に、中国陶磁協会名誉理事長であり日本の人間国宝にあたる中国美術工芸大師である秦錫麟先生には、中国で本格的に活動する外国人陶芸家第1号になるようにと励まされ、支援して頂くようになった。



秦先生の薦めで、今年3月に中国唯一の陶芸専門大学である景德鎮陶磁学院で日本人として初めての個展を行った。予想を超える大盛況で、透明度が高くカラフルな色絵磁器は、景德鎮の人達に衝撃を与えたようだった。



また、8月には中国2大美術館の1つ国立上海美術館で、外国人陶芸家として初めてとなる個展を開催する。主催してくれるのは中国最大のアートフェアを開催する上海芸術博覧会組織委員会。万博期間中でもあり、中国人だけではなく世界中の人達に作品を見てもらうことになる。

今、上海は現代陶芸で世界一の市場になろうとしている。

現代アートの中心地がニューヨークなら、現代陶芸の中心地は上海という時代がまもなく来るであろう。

その中で、日本人としてはもちろん、外国人陶芸家第1号としてどのように評価されていくのか、私の挑戦は、これからが本番である。



九谷焼 中国でも注目

中村さん個展に1万人



作品を紹介する中村さん（中央右）
＝上海美術館で（中村さん提供）

磁器や、花鳥風月を色鮮やかに描いた皿などが来場者の目を引いたという。

万博も上海で開催される中、個展には中国人や日本人だけでなく米国やロシア、インド、フランスなどからも大勢の人が訪れた。作品に感動した観覧者から握手を求められることも多く、中村さんは「世界に通じる九谷焼の良さを示すことができ、認められたのでは」と手応えを感じた。

九月八～十二日に上海で開かれる「上海芸術博覧会」にも外国人唯一の陶芸作家として作品を出す予定だ。

中村さんは二〇〇四年、中国の陶磁器の大産地・景德鎮で国際陶磁博覧会に出品したことなどを機に、今回の上海美術館での個展開催が決まった。

国立上海美術館

三十年のキャリアがある中村さんが手掛けた七十九点を展示。絵の具を塗り重ねて陶器のような風合いにした

中国の二大美術館の一つとされる国立上海美術館で十四～十八日、加賀市大聖寺錦町の九谷焼作家中村元風さん（五巴）の個展が開かれた。同館での個展は外国人初。約一万人が来場し、古九谷のルーツでもある中国で存在感を見せつけた。（池田知之）

九谷の五彩、上海美術館に

加賀の中村さん 中国人以外で初
加賀市大聖寺錦町で今九谷窯を開く九谷焼作家中村元風さんが14日～18日まで、中国・上海市の上海美術館で作品展を開く。主催の上海芸術博覧会組織委員会によると、北京市の北京美術館とともに中国の二大美術館とされる上海美術館で、外国

て、中国人以外の陶芸家として初の個展の開催が決まった。催展は「2010上海万博記念 新五彩・九谷を元にして作った五彩作品30点、独自技

法で表現した「新五彩」の作品49点を展示する。14日にはオープンングセレモニーが開かれ、寺前秀一加賀市長、県立歴史博物館の北春千代学芸主幹、県九谷焼美術館の中矢進一副館長や上海政府関係者らが出席する。

目を集めそう。中村さんは「中国で生まれた五彩・山水を大切にしながら、陶芸の世界的価値を高め、日中の懸け橋になりたい」と話している。



上海美術館での個展に向け、抱負を語る中村さん
＝加賀市内

上海万博が開催中の上海で展示される九谷焼の五彩は、五彩のルーツである中国でも注

[シンポジウム報告]

カラコルムとヒンズークシュ山脈での 最近の1世紀における氷河の変動

Glacial change during the 100 years in the Karakoram and Hindu Kush Range.

—— 衛星画像と探検時代の地図の比較による ——
Comparing the old maps with the corresponding satellite images.

世界の山岳地帯の氷河は、19世紀に小氷期が終わって以降、後退・縮小傾向にあることが観察されてきた。ネパールやブータンヒマラヤについては、ここ30年間ほどの実測を含む現地調査の実績があって、氷河の衰退が記録・報告されている。

一方で、ヒマラヤ西方のカラコルムやヒンズークシュ山脈については、厳しい自然条件もあって、同様の長期的調査の事例が少ない上に、さらに遡る数10年以上前との比較については、氷河の変動を具体的に述べる文献はないようだ。

カラコルム周辺は19世紀から大英帝国とロシアの角逐の場であり、かつては地上に残された最後の地理的探検の対象地でもあったことから、西欧の多くの探検家や登山隊が良い地図を残してきた。氷河消長との関連でこれらの古い地図を見たところ、カラコルムの大～中規模氷河のうち、数10年以上前の詳しい地図が利用できるいずれの氷河についても、現代の衛星画像との比較によれば、最近のほぼ約1世紀の間では、その氷河先端（舌端）位置には変化がないことが判明した。ただし、厚さの減少などの衰退傾向は見られる。一方、ヒンズークシュでは大氷河といえるものは少なく（古い地図資料もない）、近年は中小規模の氷河は後退している。

長岡 正利 (茨城県) Masatoshi NAGAOKA (Ibaraki Pref.)

(国土地理院客員研究員。㈱日本地図センターと㈱アイ・エヌ・エーに勤務)

1. はじめに

世界の山岳地帯の氷河は、19世紀までのやや寒冷な期間（小氷期）が終わって以降、後退・縮小傾向にある。また、近年の地球温暖化傾向の中で、それがさらに加速されていると見られている。

先に、WWF（世界自然保護基金）は、その報告書『An Overview of Glaciers, Glacier Retreat, and Subsequent Impacts in Nepal, India and China』（2005）において、各地での研究を総括して、温暖化の進行に伴ってヒマラヤ（ネパール・インド・チベット）の山岳氷河の後退が加速していることなどを示した。また、氷河の後退による下端氷河湖の決壊・洪水の危険性も指摘されている。

近年の地球温暖化に関連して、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）は、科学的・社会経済的な評価を行っており、その『第4次評価報告書』（2007）では、現在の気温上昇トレンドから見て、21世紀末の地球の平均気温が最大で4℃程度上

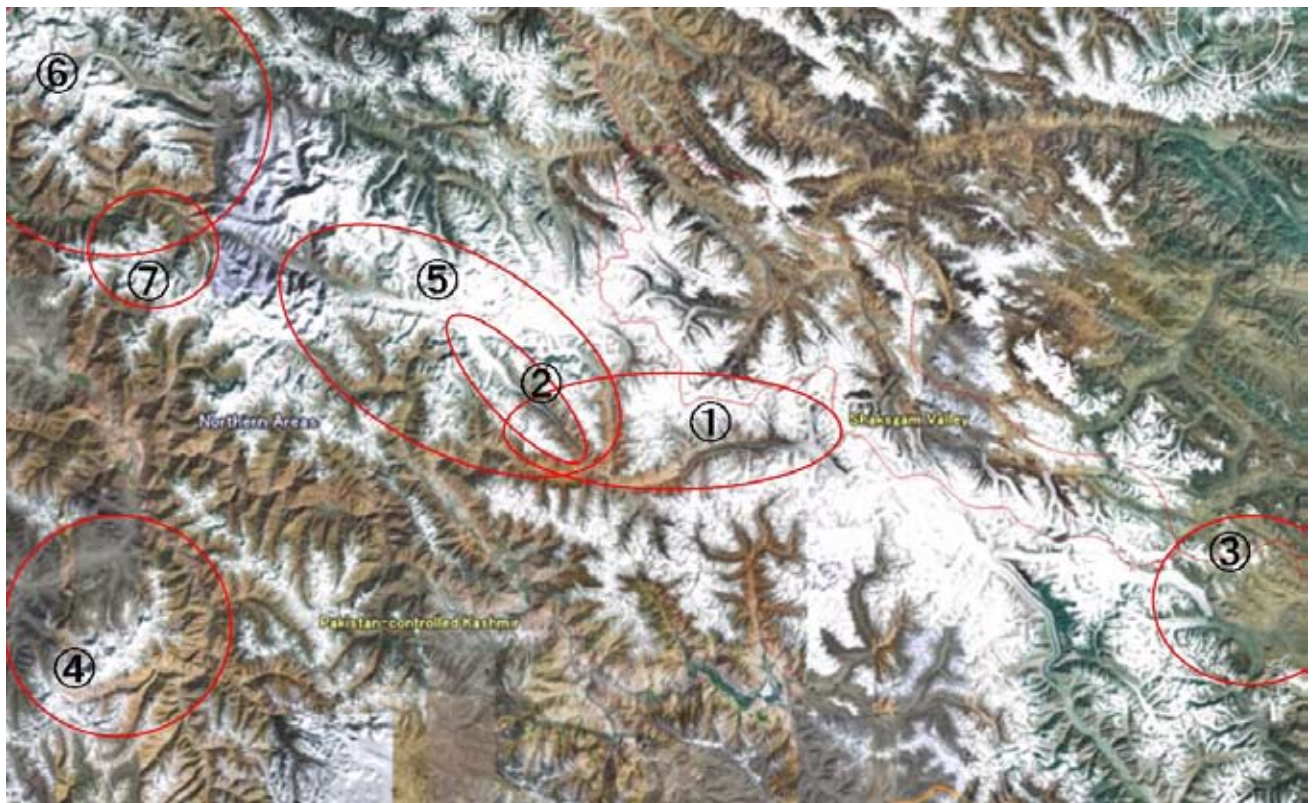
昇するとした。そうであれば、氷河を始めとする微妙な自然系には大きな影響が及ぶ。

本稿は、カラコルムとその周辺についての最近の1世紀における氷河の消長を、衛星画像と探検時代の地図との比較によって説明するものである。なお、筆者は雪氷学や気候学に係わる者ではないので、ここで対象とした氷河の涵養（降雪）と消耗のメカニズムなどについては言及できない。

2. この分野での研究の経緯

ネパールやブータンヒマラヤについては、我が国の研究者により、ここ30年間ほどの、実測を含む現地調査の実績があって、『雪氷』特集号（2001）などにその成果がまとめられており、中尾正義（2001；同号中）は、「ヒマラヤでは、最近20年あまりの間に世界でもトップクラスの勢いで氷河が急速に衰退してきている」と述べている。

一方、中緯度地帯での巨大氷河が集中しているカラコルム山脈については、厳しい自然条件も



[図1] カラコルムとその周辺において、最近1世紀の地図が利用できた地域とその地図
The karakoram and adjacent areas covered maps of past 100 years.

- ① Biafo & Baltro Glaciers. 12.7万分の1地図／Conway 1892
- ② Biafo Glacier to Hisper Pass. 12.7万図／Workman 夫妻 1899
- ③ Depsang Plains 25万図／de Filippi, 1913-14
- ④ Nanga Parbat 5万図／ドイツ登山隊, 1934
- ⑤ Hisper-Biafo Glacier 約20万図／Shipton 1939
- ⑥ Hunza-Karakoram 10万図／ドイツ登山隊 1954・59探検の編集図
- ⑦ Minapin. 5万図／ドイツ登山隊 1967
- ⑧ 全域：戦前のインド測量局の地図を利用して作られた日本の陸地測量部の外邦図と、米国 AMS の25万図
なお、30年ほど前のソ連邦参謀本部の20万図も、全域をほぼ同時期かつ高精度で比較するためには貴重な資料であった。

あってか、同様の長期的調査の事例に乏しい上に、さらに遡る数10年以上前との比較については、氷河の変動を詳しく述べる文献はないようだ。

3. カラコルム等での最近1世紀の氷河の消長

本学会第6回大会のシンポジウムで報告した標題の内容は、かつて、(株)日本山岳会の英文ニュース『Japanese Alpine News』Vol.8（その第Ⅱ部特集）に掲載の小稿「Glacial change during the 100 years in and around the Karakoram Range」(Nagaoka, 2007) に紹介したものであり、本稿における図版はそれらを転載させていただいた。以下、それに沿って説明する。

この地域でのここ1世紀の氷河消長を検証するために、(1) 1世紀ほど前の探検家や登山隊による各種の地図のうち、その通過経路にあたった部分を実測した精度の良い地図と、(2) 現代の衛星画像とを比較した。利用した各種地図がカバーす

る地域の概略範囲とその年代は、図1下に記したとおりである。現代の氷河の状況は、Google Earthにおける衛星画像と、一部は現地写真による。

3-1. 大～中規模な氷河の場合

バルトロ氷河について、過去1世紀の間の変化を、図2の現地写真による比較、図3の古い地図と衛星画像による比較で示す。ここ1世紀ほどの間は、氷河先端（舌端）は同じ位置にあった。ただし、氷河の後退はないものの、厚さの減少（図2）などの、衰退は認められる。同じ傾向はほかの氷河でも見られた。図4は、東部カラコルムのリモ氷河である。これらは、その場所に横たわったまま、緩慢に消滅しつつあるように見える。

ただし、大規模な氷河のうちで シアチェン氷河、チョゴルンマ氷河のほか、シャクスガム河流域・シムシャル河流域・サセル山群北面の氷河では、数十年前の地図がないので、長期間については不明であるが、30年ほど前のソ連邦地図と

の比較では同様の傾向が見られる。

図5は、ナンガパルバット北面のライコット(ラキオット)氷河の先端部である。先端の位置はここ数十年間同じであり、氷河表面の沈下状況も同様である。これが、カラコルムにおける大～中規模の氷河の一般的な姿で、その先端位置は同じであるが、全体的には衰退していると見させる。

ヒンズークシュでは古い地図資料はなく、大氷河といえるものは少ないが、同様にソ連邦地図との比較では、近年は多くの氷河は後退している。

3-2. 同、小規模な氷河の場合

無数ともいえる小規模な氷河には、長期的に変化のないものから、かなり後退したものまで、さまざまである。

図6はナンガパルバット南面の懸垂氷河(末端に氷河湖)で、変化なしの例。図7は、ザンスカール地方への入り口での、Durung Drung 氷河とその側壁に懸かる小氷河である。この小氷河は19年間を隔てて完全に同じ形状で、同じ位置(7-aと7-bの比較)にあった。図8は、フンザ地方の住民が、ヒスパー氷河経由でスカルド方面を往復するために使っていたヌシク・ラだが、峠付近の氷河が無くなったために、越えられなくなった。

3-3. 興味ある現象、氷河の前進

氷河の中には、末端位置がかなり伸びているものがある。その例として、図9はバルトロ氷河左岸支谷のリリゴ氷河である。約30年前のソ連邦地図では、バルトロ氷河との間の約2kmは狭長な氷河湖となっていた。1世紀前の現地写真でも氷河は谷の奥にあった。しかし、現在はバルトロ氷河と接している。ある時期に氷河サージによって急激な氷河伸長がおきたことが考えられる。

Google Earth によってカラコルムの全域を概観した結果によれば、カラコルム北東部のシャクスガム河流域の氷河については多くの支流氷河に見られる乱れたパターンのモレーン列から、サージの発生が推定できるなど、カラコルム山脈主脈の北東側では氷河の活動は活発である。なお、短期的な観察だが標高の高い地域での少数の氷河は前進しているとの報告(K. Hewitt, 2005, Mountain Res. and Dev., 25-4)もある。

4. 結論

・カラコルムにおける大～中規模の氷河のうち、詳しい地図が利用できるいずれの氷河でも、こ



[図2] バルトロ氷河の末端
Terminal of Baltro Glacier: Comparative photos
by de Filippi(1909) and Nagaoka(1999)

アブルツィ公爵のカラコルム探検時(de Filippi, 1909撮影)と、同位置から長岡撮影写真(1999)との比較。上写真の矢印✓位置で比較すると、氷河が薄くなって、遠くの山が下方まで見えるようになったことが判る。

こ1世紀ほどの間は、氷河先端は同じ位置にあった。

- ・ソ連邦地図により、30年ほど前との、全域・高精度の比較が可能であり、この期間では、同様に氷河の先端は同じ位置にあった。
- ・いずれの氷河も後退はしていないが、厚さ減少など、衰退している。
- ・まれに、前進している氷河もある。
- ・ヒンズークシュでは、近年は多くの氷河は後退している。
- ・小さな氷河では、長期的な消長は様々である。
- ・なお、長期的な比較はできないが、近年の衛星画像によれば、カラコルム山脈主脈の北東側では、氷河の活動は活発である。
- ・探検時代の地図は、このような分野では唯一の貴重な情報である。困難な時代に、高い精度の地図を作成した先蹤者に敬意を表したい。

《受付 2009. 9.12》

《査読後受理 2009.10.12》

Figs. 3-4 : Major glaciers which have not receded



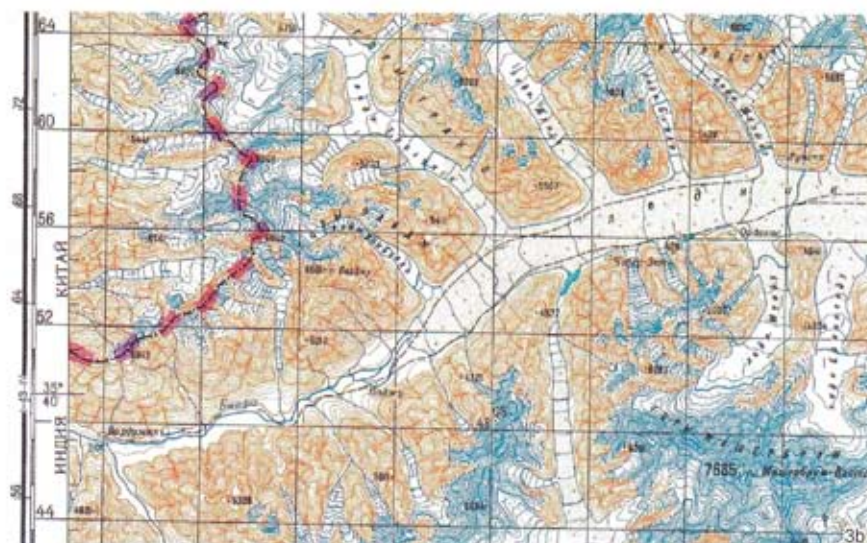
3a

Figs. 3 Baitro Glacier

3a. Biafo and Baitro
Glaciers, drawn by
Conway in 1892 after
difficult field work.

3b. 1985 Soviet Army
Issue 1:200,000
Topographic map in a
4 km mesh, compiled
from 1:100,000 map
(1976).

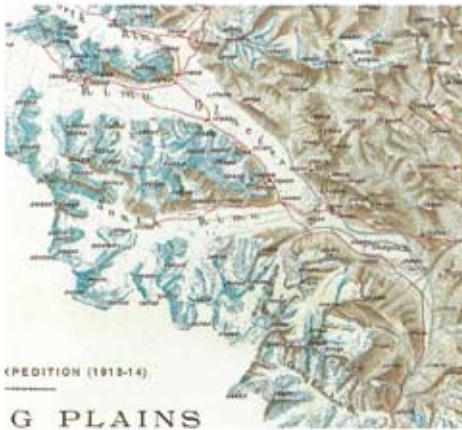
3c. Present image by
satellite.



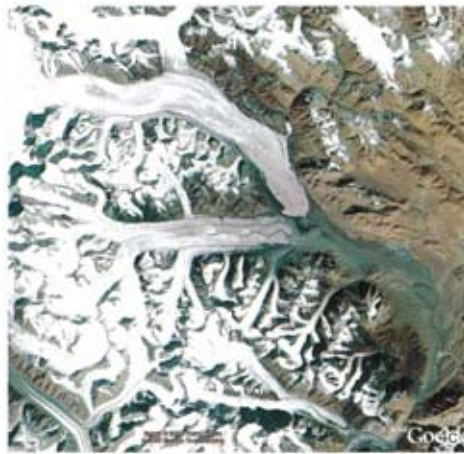
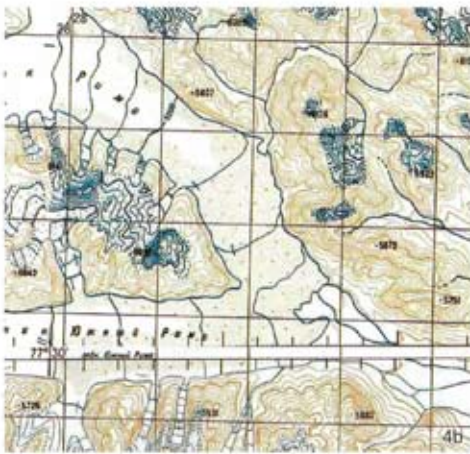
3b



3c



Figs. 4 Rimo Glacier.
 4a. Map by de Filippi, 1913-14
 4b. 1985-86 Soviet Army Issue 1:200,000 Topographic map, compiled from 1:100,000 map (1976-78)
 4c. Present image by satellite. (Google Earth™ map service/ Europa Technologies, TerraMetrics)
 4d. Photo by de Filippi, 1913-14
 4e, 4f. by H.Sakai / JAC, in 2002.
 The 4d and 4e photos were taken on a divide (respectively a little different places) between the Central Rimo and South Rimo Glaciers facing the east. The same ridges in 4e can also be seen in 4d (left). Depsang Plain is on the right front in 4d. 4f shows the terminus of Central Rimo Glacier.



Figs. 5 : Glaciers of medium scale : no recession recognized.
An example is Raikot Glacier on the northern face of Nanga Parbat.



5a. 1:50,000 map compiled by German expedition in 1934.
5b. Present image by satellite. (Google Earth™ map service//Europa Technologies, TerraMetrics)
5c. 5a partly magnified. The width of the figure corresponds to 7km.
5d. Glacial terminus. Photo by M.Nagaoka, 2005. The position was the same as in 1934 map, which shows the glacier has not receded but become thinner over these years. This is a common aspect of a Karakoram glacier.

Figs. 6 - 8 : Glaciers of a smaller scale show all aspects from receding to advancing.



Figs. 6 Hanging glacier on the southern face of Nanga Parbat.
 6a. 1:250,000 map of Japanese Imperial Land Survey's reproduction of the map of Survey of India issued before 1934.
 6b. 1:50,000 map made by German expedition in 1934.
 6c. Present image by satellite. (Google Earth™ map service/ Europa Technologies, TerraMetrics)
 6d. Glacier lake at the terminus of the hanging glacier. Photo by M.Nagaoka, 1984.



Figs. 7 Durung Drung Glacier, northwest of Zaskar. In the red circle (7c) is a 5,940 m peak southwest of Pensi La, with a small hanging glacier. It has not changed in the two photos M.Nagaoka took in 1988 (7a) and 2006 (7b). 7c, also taken by him in 2006, shows Durung Drung Glacier still in good condition.

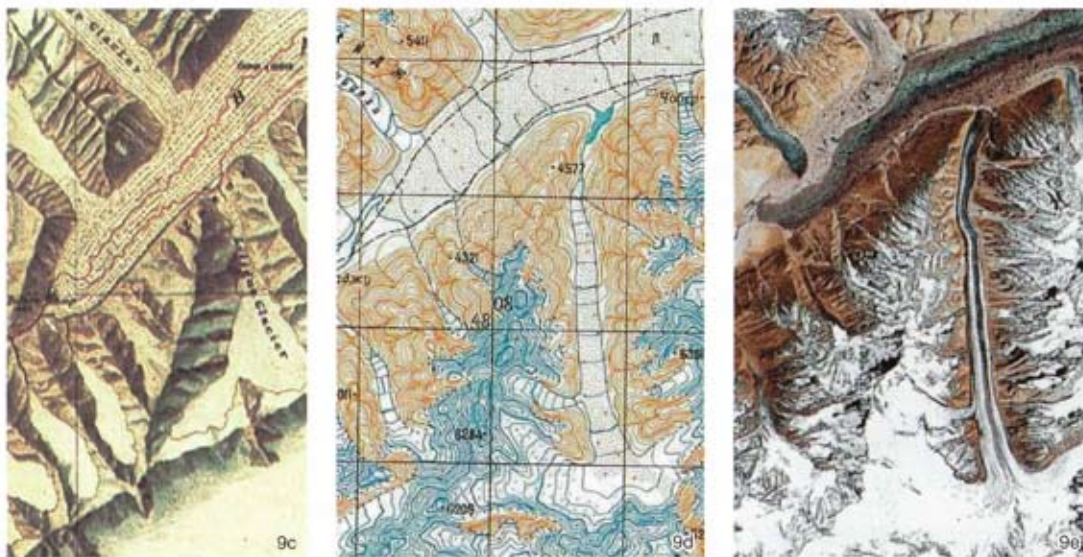


Figs. 8 The Small glacier of Nushik La has disappeared. Photo by H. Sakai, 1981.

Figs. 9 Liligo, extending from a Baltro tributary, is a typical example of an advancing glacier in recent years. One local guide said : Liligo was way up the valley many years ago.



9a The glacial terminus was in a much inner part in 1909 (photo by de Filippi).
9b In 1999, Liligo had reached Baltro Glacier (photo by Nagaoka).



9c Map drawn by Conway in 1892.
9d 1985 Soviet Army Issue 1:200,000 Topographic map, compiled from 1:100,000 map (1976). This shows the distance between Liligo terminus and Baltro Glacier was about 4 km.
9e Present image by satellite (Google Earth™ map service/ Europa Technologies, TerraMetrics)

編集後記（事務局から）～

OB会会報「やまざと」vol.25 も原稿を送っていただいた方々のご協力のもと、何とか年末発行にこぎつけることが出来ました。原稿をお寄せいただいた方々には改めて感謝申し上げます。

先日、11月6日（土）に金沢大学で「ホームカミングデイ」が開かれました。今年で4回目となるこの催しは、大学が金大祭に合わせてOBに大学に来てもらおうという、大学全体の同窓会的な催し物です。自分も勤務先の関係で大学からも要請を受け出席してきましたが、田村教祖も福島から駆けつけて法被姿で四高寮歌や南下軍の歌を歌っておいでました。いい天気でしたので、この会の前に大学祭を覗いたところ、出店の1つに何と「ワングル」の文字が…。現役がもつ鍋の出店をやっており、売上げに協力しつつ現役といろいろ話をする事が出来ました。田村教祖も来年はこの時に合わせてワングルOBを金沢へ呼ぶぞ！とおっしゃっていましたが、何とかそういう企画もできたらいいかなと感じた1日でした。

金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会 会報誌「やまざと」vol.25

発行日 2010年12月

発行者 久富 象二（OB会会長・20期）E-mail chmxm643@ybb.ne.jp

編集・印刷 デザイン・ブリーズ

OB会事務局 〒920-0831 金沢市東山3-19-4 鳥越 伸博（23期）TEL(076)252-6953

E-mail tori3512@knz.fitweb.or.jp n-toripapa.860510@docomo.ne.jp

OB会ホームページ：<http://www.kuwv.net> 管理人/奥名 正啓（15期）

OB会費払込口座（口座名義：金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会）

郵便局（通常払込）00780-3-14120

ゆうちょ銀行〇七九支店 当座預金 No.0014120

北國銀行本店 普通預金 No.223703

- ・ OB会は皆様のOB会費で運営しております。OB会の趣旨にご賛同いただける方で、会費納入をお忘れの方は、何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。（今回、納入いただけていない方に納入のお願いと払込用紙を同封してあります。）
- ・ 住所が変わられた方は、お手数でも事務局までお知らせいただくと幸いです。
- ・ 奥名さんから定期的にeメールでOB会通信を配信していただいております。配信をご希望される方はご自分のメールアドレスを奥名さんまでお知らせください。奥名さんのメールアドレスは ma-okuna@nature.email.ne.jp です。

K U W V O B 会 会計報告

(2 0 0 9 年 1 2 月 1 日 ~ 2 0 1 0 年 1 1 月 3 0 日)

【 収 入 の 部 】

OB会費納入	90,000
寄付	10,000
森のうたCD購入代金	77,200
預金利息	347
計	177,547

【 支 出 の 部 】

OB会報(やまざと)No.24 作成費	384,300
OB会報(やまざと)No.24 郵送費	50,838
「森のうた」CD作成費	278,250
「森のうた」CD郵送費	7,630
現役とOB会役員との懇親会	75,630
舟田さん(15期)百名山登頂記念横断幕	17,685
役員会議費	1,065
事務用品費	19,310
振込手数料	5,040
計	839,748

【 差 引 剰 余 金 】

前回(09.11.30)繰越金	1,986,942
収 入 の 部	177,547
支 出 の 部	839,748
差 引 剰 余 金	1,324,741